

会 議 報 告 書	
会 議 名	平成29年度第2回草津市社会教育委員会会議
日 時	平成29年9月20日(水) 自 15時00分 至 17時00分
場 所	草津市役所8階 大会議室
出 席 者	委員：横山委員長、辻本副委員長、浜田委員、石本委員、鈴木委員、 岸本(修)委員、大林委員、竹村委員、仁科委員、 岸本(岳)委員、山本委員、安達委員 事 務 局：田中教育部副部長、相井生涯学習課長、増田健康福祉政策課長、吉田参事、小島専門員 傍 聴 人：なし
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有(別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無
記録作成者	生涯学習課 氏名 吉田 万里 印 内線(2773)

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 議事

■報告事項 近畿地区社会教育研究大会(京都大会)の報告について

【E委員】

9月7日に近畿地区社会教育研究大会京都大会に参加をさせていただきましたので、簡単に報告をさせていただきます。全体会のほうは冷泉貴実子さんの記念講演といたしまして、「和歌と披講」ということでお話をされました。私は披講というものが、初めての体験だったんです。和歌っていうのは、もう文字で見て観賞するものだというイメージがあったんですが、それをきちんと歌で聞くということはこの冷泉さんが御指導されています、京都府立鳥羽高校の2年生・3年生の方がきちんと和服姿で、このような振る舞いでやるんですよということも含めて、実際にその場を見せていただいたというような経験をさせていただきました。そのあとに、冷泉さんの講演ということでお聞かせいただいた次第です。

やはり、冷泉家の長女の方でいらっしゃるって、もうそのままお話になっている姿に文化を感じられるというんでしょうか。この体験を通じて、「京都というまちは世界的にも教養を売っているまちだよ」ということもおっしゃいまして、「ああ、すごいな」というふうに思った次第です。最初の全体会はそういう和やかな雰囲気終了いたしましたので、分科会がトータル5つぐらいに分かれてたんですけども、私が参加させていただいたのが、大阪府によります地域づくりということで、テーマが自由な居場所から広がる地域のつながり、喫茶 男の井戸端会議室「男

談」です。河内長野市南花台という以前の35年前のニュータウンとして開発されたまち、そこで行われている活動の事例を発表されたということです。その中で、本当に月に1回集まられるんですが、とっても楽な喫茶店ということで、本当に男性だけが集まる。女性は一切入り込んではいけないというような環境で行われており、本当に男性の方が気軽に、とりあえず集まるところから始めようということで、企業社会と全く違い、役員がない。規則もない。会費もないという、逆にこれが難しいんじゃないかと皆さん、質問されていましたが、その状態で13年間続いたという活動だということです。

本当に少しずつ、気づいたことは自分がみずから動いて行う。コーヒー入れるのも自分がやればいいし、後片づけ、最初のことも全部自分でやる。そしてその場で交流をして、こんな人たちが地域にいるんだなということをお互いに知り合いながら、情報提供、情報交換というようなことをずっと続けてこられているという地域でした。本当に、ここの中でも新しい中でも、男性をいかに地域に出てきてもらうかっていうのはこれからどこでも大きな課題になると思いますが、その中で、楽やけど、難しいというような、挑戦的な交流の場のつくり方だったなというように感じました。以上です。

【委員長】

ありがとうございます。

質問なのですが、この男談の集まりから、それがいろいろな自主活動へ展開していくことがたぶん成果として期待されてることだと思います。いろいろなクラブが出てきていて、それはそれでいいと思う訳ですが、趣味的な部活動が多くあるように思います。我々が今後の目標としている、まちづくりといいますか、地域をつくってくれる活動ということには発展していったるのでしょうか。

【E委員】

その辺の詳しいところの発表はなかったです。いわゆるまちづくりとか、社会貢献していますよっていう流れのほうのお話は余りされてなかったんですが、そのような活動も実際にはあるんだろうなと思います。地域の学校との関わりの面は広がってきているというようなお話はされていました。楽しい会だけでは終わってないというような感じを受けました。

【委員長】

多分あると思います。きっかけとしてはすごくいい。ぜひ、我々はプラス楽しく、その地域のまちづくりに貢献していくというところを模索していきたいと思っています。

E委員、ありがとうございました。

それでは、協議事項に入ります。

■協議事項 提言書の内容について

前回は5月にコミュニティ事業団から来ていただいて、学びの体系化の研究について御発表をいただき、それを基に、委員の皆様からもいろいろ御意見をいただいていた。

本日の論点の一つは、具体的なこのカリキュラムについて、委員の皆さんの案を事前に事務局でまとめていただいているようですので、これは自分が提案したものだということがあれば、ぜひそれに基づいて、お話いただきたいですし、もう一つは、それを実行していくための運営組織みたいなものが必要ではないかということが研究会のほうでもあったということですが、そうした体制というのは、どういうメンバーでどういった関わりができるかということですが、そうした御意見があれば、ぜひ皆さんの御意見をお伺いしたいなと思います。

【E委員】

まちの基礎というところですが、意外と地域まちづくり協議会のホームページとかを探しにいても、具体的な数値、データですよね。人口とか、要介護者がどのくらいいらっしゃるのか、災害のときの要支援要介護者、そういったところがわからないんです。ですから、今でおっしゃる「まち」っていうのが、どの単位でやるかということも問題ですけど、例えば学区とみた場合に、その学区がそれぞれもつ実際の数値をマップに重ね、そこは高齢化率がどうかこうっていうようなところが、はっきりわかるようなものと、あとハザードマップとか、ホームページに上がっているのが結構古いんですね。実際ここに新しい道ができてるよね。ということも多いので、そういった最新の情報とか、具体的なデータを知りたいと思います。よそとうちの学区との違い、特徴というところも知りたいですね。それと、もうちょっと進んでからかも知れませんが、そういった学校のほかのところの事業がやってらっしゃることを知りたい。交流という意味も含めて、ほかの事業を、学区の事業として成功例があればそれを知りたい。横のつながりから学ぶっていうようなことが大切だと思います。そしてその学区にいらっしゃる人材をまず知らないといけないので、アンケート。どんな方がいらっしゃるのかっていうのは知りたい。まちづくり協議会で把握されている、いわゆるお昼間に動ける方っていうのは割ととらえやすいかなっていうふうに思うんですけども、昼間お仕事されてる方々が夜に気軽に集まれるような機会があれば、新しい人材の掘り起こしができる機会があったらいいなと思いました。

あと、事業所さん、学区の中は住んでいる人だけのものじゃなくて、事業所さんいろいろな活動、活躍、地域貢献されてる事業所さんがいらっしゃると思いますので、そういう事業所さんの紹介リレー講座とか、住んでる人だけじゃないまちづくりという意味でもそういったものがあればいいなというふうに思ったのが一つ。

それがまちの基礎というところでは。

まちの経営のところですが、今、まち協に来られている活動団体さんというのは、地域まちづくりセンターにすでに入居されている団体さん、サークルだけだと思いますので、それ以外にもたくさん草津市内には、活動されている団体がいらっしゃいます。これはコミュニティ事業団さんがつくってらっしゃる「つながりの目」という団体情報誌を見ればわかるのですが、他学区でいろいろな活動されてる方も、ぜひうちの学区でも活動していただけたらいいとか、新しい団体さんを発掘することも大切だと思います。交流できるようなイベントとか、あと今、いろいろな活動されているので、動画で見るとわかりやすい。写真もそうですけど、文字だけじゃなくて、動画で見るとわかりやすいので、それぞれのまちづくり協議会さんのホームページにこういうイベントがありましたよというのが動画で編集されたものを見ることができるというふうな感じで、その講座があればいいかな。それができる人がふえる。動画の編集とかができる人がふえて、なおかつホームページにもアップできるというふうな感じで思いました。

あと、退職後の方の地域デビューに備えた、55歳以上の方の促進企画。先ほど男談の話をしたのもあるんですけども、集まる機会があればいいなというふうなのと同じように、土曜日や日曜日や夜も交流できる企画、お仕事を終えて、地域に帰って来た方が地域にデビューしやすくなるような雰囲気づくりが整えていけたらいいかなということでは。

最後の、分野別学びの活動で、やはり時間帯、子育て世代の方々、高齢者の方々が受けやすい時間帯にどうしてもなってしまう。多分、いっぱい出てくると思っていますので、そうじゃない方々も出やすい時間帯の講座があって、それが活発に行われるというふうな感じで思っています。

【委員長】

多岐にわたってお話をいただいて、大変参考になるなと思われました。

最初のほうにお話されたまちの状況ですが、これは既にコミュニティ事業団では少し検討されていると思います。全国的にはまちのカルテ——まちの診断表というのをつくって、やっぱり今、E委員のおっしゃったように、高齢者率ですとか、そういうまちの状況というのを、例えば、まち協をつくっても、それがないと、次の処方せんが出てこないわけですね。そういうことをきちんと整理するという事は、全国的にはいっぱい見られるんですよ。なので、これはこの市民大学以前の問題かも知れないですが、同時進行でそういった情報を整理して、またそれをみんなで学んでいくということですね。そして、その結果で地域の課題を見つけ、それについて解決する講座をつくっていくというようなことになってくると思っています。そのためには、まち協の人たちにアンケートをとるということは大事かも知れませんね。まち協ごとに何を課題として、どういう活動やどういう人材が欲しいとか。そうしたところを把握することは大事だと思います。それから、事業所のリレー講

座とか、団体の紹介ですとか、こういったところにはこういう講座があるといいなと思いますね。それから、動画のスキル、スマホのスキルっていうのはどこかにありましたけども、そういうスキルを学ぶというところも非常に大事ですね。

それから、ほかのまち協、皆さんがどういう活動をされているかとか、退職後の皆さんを地域デビューするためにどうしたらいいか。これは一部ですけれども、今まちづくり協働課さんはされているんですよ。そういうものもこうした我々がつくっていく市民大学の中に盛り込んでいくということが非常に大事なかなと思います。

【H委員】

以前もお話したかと思いますが、まち協と自治連とのかみ合わせというのがいまだにじっくりいっていないということがあります。その中で、このワークシートを見たときに、やはり足もとからやっていくのが本当だなということを、痛切に感じました。それでこのまちの基礎で考えたのは、学区で、一つの輪として寄りあい、話しあい、そして団結して、まちをつくっていくのが肝心だと思うんです。

実は半年ほど前、転居しました。そうしたら、隣近所は何をしているかということとは全然わからないんです。それでは、まちの活性化ということにはつながりません。そのような中で、やはりボランティアというものが一番肝心じゃないかと思うんです。前に住んでいたところでは切手とかアルミ缶とかを集めて、社会福祉協議会に持って行くことをやっていたんですけども、今の町ではそれはできないので、復活してみたいなと感じています。高齢者の健康づくりとか、そして子どもたちとのコミュニケーションなどをまち全体が考えていくのがこれが本当のまちづくりじゃないかなと考えさせていただきました。

【委員長】

多分、新住民の方もそういうところを思ってもらっちゃると思うんですよ。ですからどなたが草津市に来ても、草津市のことがよくわかって、この地域のことがわかって、そしてまた自分もそこに何か入って行ってといいますか、活動できるというような、そういうことの後押しするような学習の機会というのを我々がつくっていかなきゃなというふうに思います。

【G委員】

まちの基礎ですけど、「まち」を町内というふう限定すれば、町内で年何回かの広報紙を出していますが、行事とか予定とかそういうことのお知らせが中心になっています。私の住んでいるところは、住んでから30年、40年たっている人もいれば、去年ぐらいに越してきた、今年越してきたっていう人もいて、町内の中が新旧混在している感じです。昔から住んでいる人は「今さら」って思うかも知れないですけど、もともとこの地域はどうであって、どんな歴史があるかなどわかってもらうための記事を広報紙の中に入れられないかなということも考えています。

それから、子どもたちは夏に2回合宿をしますが、その合宿の中で町内をフィー

ルドワークをしたりして、あと役員さんと学校の先生とか、参加してくださった人には一緒に回ってもらうのですが、意外と大人は地域のことを知らない。住んでいながら神社がどこにあるのか、お寺がどこにあるのかということを知らないという人が多い。その人のために月1回でもいいから、いわゆる町内のフィールドワーク、できればそれに慣れれば学区内、隣の町内から学区を回ってくるという、そういったこともやってみたいなということは今考えています。なかなかそれを実践するまでにはと時間がかかるかも知れないですけど、せっかく住んでもらってるんだから、まずは知ってもらわんとですね。その辺からまず始めたいなというふうには思っています。

それから、まちの経営・スキルアップということですけど、まず地域活動するためのリーダー、今私もその一人ですけど、それに続く世代を早急につくらないと、空白ができる可能性があるので、次世代の人に、確かに最近では60定年と言われても、60でぷつぷつやめて地域にかかわろうかという人はそんなに多くないですね。ほとんどはやっぱり体動くあいだは働こうとする人が増えてるんで、町内のこと、いわゆる地域のことに関われる人が少ないですね。そう言っても、僕も十何年やってるんですけど、いつまでたっても次が入ってこない、新人なんてつらい。年は食っても新人やというおかしな現象になってるので、どういうふうにしたらいいのかということ、他の学区でも皆さん、悩んでいるところだと思うんです。その中で、今やっているのは、まず地域のイベントに参加してもらう。それは子どもを引っ張って、保護者にも来てもらう。それから、各種の一つのイベントに必ず参加してもらって、参加してもらってる中から、「協力しよう、ちょっとお手伝いしよう」という人を募るといいます。そういうことをしながら、まちづくりに参加してもらうということを考えてるんですけど、なかなか今年手伝ったから来年もというふうにはいかない、根気よくいかないと難しいかなと考えています。

地域課題の分野別というこれは、今小学校のコミュニティスクール委員になっているんですけど、なかなかボランティアの人が集まってくれないという部分があるんで、一度に集めるんじゃなしに、もっと細かく区切って、日数であるとか、時間とか、「この時間帯はどうですか」みたいな感じで、その1日ずつではなしに。

地域協働合校で、わくわく王国という2日間あるイベントで、子どもたちは1泊するものですから、大人が1泊2日をサポートしようと思うととても大変だったのですが、2時間ごとに時間を区切り、この時間、自分が行ける時間に来てもらうという形にしたんですね。そうすると、半日やったら来られます。この時間以降なら来られますみたいに協力いただける人数が増えたので、通しで助けてくださいという、やっぱり最初からしんどいかなというふうに感じました。

地域の住民の人が仕事上とか、今まで経験してきたいろいろな技術とか、体験談とかそういうことをたくさん持っておられると思うんですね。それはその人の財産であるんですけど、そういう財産をみんなのために活用できないかということから、人材バンクみたいな形で、いわゆる私は私、〇〇やってみましたと登録してもらって、

何かのときをお願いして助けてもらえるように活用する、人材バンクみたいなものを小学校ではやってるんですけど、それを町内でもやってみたらいいかなというふうに今考えています。またアンケートをとったり、今までと違う、目をひくような広報をするとか、人が参加できるような仕組みを作らないといけないと考えています。

【委員長】

ありがとうございます。今、ご自分の地区のお話を中心にいただいたと思います。実はそれぞれの地区でやられることと、それから全体的にやるべきことといろいろあって、共通したところも結構あると思うんですよね。それは例えば最初言われましたように、その地区の歴史を知るっていうことですよ。草津市全体の歴史もあれば、その地区ごとの歴史ということもあると思うんですよね。そういうことをまず最初に知るような講座をつくるっていうことですよ。それから次世代育成とか退職後の地域デビューの話は前から出ておりますけども、地域デビューというと、何か楽しくわくわく、と聞こえる人もいるかも知れないけれど、そうじゃないですよ。実際は皆さん自治の役員やらなきゃいけないと。順番で回ってきたと。さあどうしようかということですよ。そのときになって初めて慌てふためかないように、じゃあこの役に何の意味があるんだろうか、これはどういう組織のもとでこういうふうになってるのか。市の政策はどういう体系のもとでやっているからこういう役があるんだっていうようなところから学ぶ機会がないと、何をやってるのかわからないですよ。そういうことをきちんと私は学習機会として提供していくってことが今は非常に草津市では求められているんじゃないかなと思います。

それから広報、いかに分かりやすいものをつくっていくのか、人材バンクも含めてですがいまもすでに「ゆうゆうびとバンク」もあるんですよ。これをいかに充実させて、学習体系とあわせて見やすいものにリニューアルしていくことが大事なことかなというふうに思いました。

【H委員】

草津市は何年か前から住みよいまちランキングで近畿1番が持続していると聞いてまして、それほど魅力ある市かなということをもっと感じまして、その辺、もっと市がこういうことで草津はいいとか、こんなんがすばらしいとか、こういうのをもっと発信してほしいなあと。たまたま今年の甲子園を見ていましたら、ベスト8に残った高校の監督の話なのですが、監督いわく、「地域に貢献、そして地域の子供たちのために」という、非常に地域と密着した高校で、非常にまち全体が応援しようという感じで、人口3万ほどの小さいまちでしたが本当にアットホームでいいなあと。そう考えたときに、草津というのは13万で、中間人口でございますけれども、そういう意味で本当に草津に住んでよかったなあと、こう言える実感がないんですよ。その辺をもっともっと市をアピールしてほしいなと。たまたま香川県はう

どん県の、平塚市は手袋が90%生産しているということで、手袋市ということで別名がある。そういう意味で、本当に親しみやすいキャッチフレーズですね。そういう面で草津市としてその辺、県外からの人が多いですので、親しみやすいような何か、もっともっとPRして、それをまち協とか、町内に発信してほしいなど。

それと、もう一つ、香川県観音寺と草津市が姉妹都市だと。これは私も知ってましたけど何でということを知らなかった。ある人に聞いたら、山崎宗鑑が生まれたのが草津で、亡くなったのが観音寺。こういうことを最近ある町会長さんから聞いて、そういうようなことをアピールしてほしいなど。あわせて、観音寺というのでも姉妹都市というけども、これは議員だけの交流であってね。民間交流いうか、まち協のメンバーも行ったたりして、そういうのも大事じゃないかなと思っております。

あと、地域まちづくりセンター、今年から変わってきたなと思ひましてね。それは、地図の歴史を学ぶということで、講座を自主的に開きまして、教育委員会から来てもらって、近世、近代、現代とか、昔の話とか、地域のよさを知ってもらおうと。子どもたちにも誇りを持ってもらうということで、そういうことを知らせる責任があるんじゃないかなと思っております。

それから、私、町内会長もしてまして、一番足元は町内会です。その上にまち協があって、市があるんですけども、市がこれをしなければいけない。まち協はこうやる。町内会はこうやるという仕分けをやってほしいなど。本当に機能する町内会のために、きちっとしていかなければいけないんじゃないかなと思っております。

【委員長】

何で住みやすいまちになってるのか、やはり市政というものを知る機会が余りないんですね。市民がそれを知りたいというのを、行政が中心にその講座を設けるべきだと思いますし、それから先人なんかもね、意外と知らないというのが、先ほど歴史の話もありましたけども、こういったことやっぱり、見る機会というのが非常に大事なかなと思いますし。いずれにしても我々はそういった地域活動される地区や市民に対して、いかにそうした活動を側面的に知っていけるかといったところの講座を考えていくのが我々の使命だと考えております。

【I 委員】

先ほどの報告でありました「男談」、同じように、住民は待ってるんじゃないしに、進んで私はこれができますと。そういう形で先ほどどなたかの提案にありましたように、取りまとめて、人材を活用していかないと。

そのためにも、学区民全員にアンケートをとって、立命館大学の学生さんにも御協力いただきながら、『待ち』じゃなく『出て来る』地域住民づくりをしていきたいと考えています。例えば、一人はサロンにいつも座ってもらっていて、まちづくり協議会、まちづくりセンターにお越しになった方に、常に話し相手になってい

ただいて、情報を聞き出したり、アンケートの中からはいただいたいろいろなものをまとめて、地域の人材力を発掘したいなと思います。

【D委員】

私は長年同じ学区に住んでいるわけですがけれども、こないだ、ふっと玉川学区の子守歌があるというのを聞いたり、例えば南草津までの家から近所に行く道がなかったのに、新草津川を越えていく道が開通したからと思って、南草津に行ったら帰る道がわからなかったり、結構学区のことはよく知ってるんですけれども、学区外のことってというのは同じ草津市民なのに、結構知らないものなんだなあというのを思ったことがあるんです。ということで、学区内の歴史やまちを探検することで、自分たちの住んでる地域のよさや問題点を再発見するというのはどうかしらと思います。地域まちづくりセンター間が横のつながりを持って、そういうふうな交流とか案内をしあったりするのも一案かと思いました。

次に、まちの経営、スキルアップにつきましては、地域の環境を改善するような講座が有意義だと思います。自然環境などを観察するとか、美しくするなど、数値や現象で結果が出るものがよいかと思います。例えば、蛍のグループがありましたけれども、蛍とか、水質改善とか節電とか、何か数値で見えていくというようなそういう講座もいいかなと思います。

もう一つ、中高年のためのボランティアにつながる講座はいかがでしょうか。

例えば、エコ読み聞かせとか、朗読とか、歌など、こういったボランティアが可能な地域で、練習はするけれども、皆さん一度そういうところに出かけましょうというふうな形で、ボランティアへの導入を促すというのはいかがでしょうかと思います。ボランティアというのは地域のためであるとともにやりがいや楽しみを見つけられるというものがその人にとっていいと思います。押しつけや義務ではなくて、その人が簡単にできることで、輝ける人になれる。そういうきっかけになる講座がよいと思います。これが知のスキルアップですね。分野別の学び、行動、活動ですね。世代だけでなく、居住地域によってニーズが違うと思うんです。例えば、マンションの多い地域なら、テラスで楽しむガーデニングづくりとか、テラスで楽しむ野菜づくりがうれしいかもしれませんけれども、田畑が多いところでは、そんなものちっとも楽しくないかもしれませんし、もっと野菜づくり、うまくなる野菜づくりのヒントみたいなほうがいいかもしれないので、かなり居住地域によってニーズが違うのではないかと思います。

この間、広報を拝見いたしました。水の森でプロを呼んで、お花の講座をされるとか、みんなでサツマイモをお父さんと掘りましょうとか、各施設やセンターで工夫して知恵をしぼっていろいろなことを考えておられる様子ですので、ここ数年の市民センターでの企画を全部まとめて一冊にしてみれば、かなりのアイデアが詰まった宝物の本、ガイドブックになるのではないかと思います。かなり、皆さん知恵を絞っておられると思うんです。その中で、ヒットしたものや、そうでなかった

ものが少しわかればありがたいなと思います。しかしながら、やっぱりニーズが違いますので、その地域で、ちょっとヒットしなかったものでも、ひょっとすれば他の地域ではヒットする可能性もありますので、そういうふうなヒットしたもの、そうでなかったもの。そういうものがわかるような、全学区のそういう今までやられたことを少しまとめるようなものがあれば参考になるんじゃないかと思います。若い世代はスマホで情報得る時代になっておりますので、情報誌をどこまでごらんになるのか、ちょっと私はわかりませんが、写真が多いものが見やすいかと思います。今後の世の中の流れに沿った企画や工夫が必要かと思います。講座の場合、私の意見は、対象者がはっきり明記されていると参加しやすいのではないかと思います。ちょっとお年を召した方が、昼間なんですけれども、若い方は、こんな講座がありますよと言われたときに、若い人は私だけではないかとか、結構ハードルが高いものですので、例えば若い世代のためのヨガ教室とか、若い世代のためのおしゃれなDIY講座とか、幼児と祖父母のためのふれあい講座とか、男性のための料理教室とか、初めての英会話とか、ベテランの英会話もあっていいと思います。あと、引っ越してきたばかりの人のための草津ウェルカム講座はどうでしょうか。まちの住んでおられる詳しい方にこれこそボランティアでいろいろ紹介していただく。こんなことがありますよ。ここに行けばこういうことができますよみたいなものでもいいかなと思います。あと、高齢者の女性の方というのは余り難しいお勉強は嫌がられますので、懐かしい映画鑑賞とおしゃべり会とか、いかがでしょうか。あと、高齢者のための脳活相談大会とか、そんなものもいいかなと思います。私が歌学、歌の音楽専門ですので、健康のためだけに歌う会。発表しないで、声を出す。そういうのもいいかなと。あと、老若男女のためのラジオ体操の会とかいうのもいいかなと思います。そういうもので、おしゃべりの機会とコミュニケーションの機会、そして夏休み、いうとすれば、ちょっと子供たちのラジオ体操を少しお手伝いできるようなボランティアも可能かと思います。あと、食材づくりとか、公園のペンキ塗りとか、公園の手入れができないものかなとかちょっと思いました。みんなで楽しんで、講座のあとにとか、半ばにそういう技術をちょっとみんなでペンキを塗りに行きましょうとか、お花の勉強をしたときに、途中で、小学校にお花をそのコーナーつくりましょうとか、そういうふうなのはいかがでしょうか。

最後になりました。定期的にアンケートをとって、今何が必要なのか、どのようなものが求められているのかを常に知り続けるということが大事かと思います。

【委員長】

いろいろなアイデアをいただきまして、ありがとうございます。非常に共感しましたのが、具体的に、社会環境を良くしていくという運動ですよね。やっぱり楽しいこともいっぱいあっていいですけども、具体的にその地域をどう良くしていくのかっていう静的な活動をつなげる講座だということが、非常に大事になってきているのかなというふうに思いますね。そして、これはこないだから出ておりますけど、

やっぱり地区ごとに特色はあると思いますから、地区ごとの講座、それと全体的にある講座、それから対象者を明記するというようなことですね。非常に大事なかなと思いますね。そして、一つの学習集大成ができれば、そうした各地区での取り組みをやっぱりまとめることは必然的に今後必要になってくると思いますので、ぜひそういうものにつなげていきたいなというふうに思います。

【A委員】

私も最近町内会と老人会の仕事の後、今年は生産組合というのが当たってしましまして、農林水産省からの補助金をいただいて活動しようということで、町内会だとか、子ども会だとか、老人会をひっくるめた活動を今町内で進めているということで、いろいろなことをやりながら、やはり自治会、あるいは学区単位ごとに本当に濃淡があるというか、かなり求めているものも違うだろうということが見えてきたように思ってます。それぞれ必要なことは一律のものではないんだと。

図書館の世界で、これはアメリカの図書館ですが、「エンベディッド・ライブラリアン」という言葉がちょっと注目されたときがあって、エンベディットというのは「埋め込まれた」という意味ですが、本来図書館で仕事をしている図書館の職員が地域の活動の中に埋め込まれちゃうんです。図書館で仕事をするんじゃなくて、地域のさまざまなそうした活動の中で仕事をしましようという展開をしているんですね。ですから、地域の活動の中に図書館員、ライブラリアンというのが入ると、そこでさまざまな情報を収集して、分析する。こういった能力が非常に高まるわけですね。そのことが地域の活動を飛躍的に高めていく。そうしたことが起こってきているということがあります。そうした意味では、地域のさまざまな活動の中に、そうした形のいわゆるスペシャリストというのが入るとということが、そうした地域の活動のレベル、質を高める非常に大きな要素ですね。

今回このワークシートで何があるかなと思いつつながら、一つはそれぞれの地域ごとにさまざまな異なった課題があるんです。もう一つは地域の人たちが、自分たちがニーズだというふうにこう考えていること。これが必ずしもその地域の課題そのものにマッチするものはないかもしれないということ。そうすると、そのあたりをきちんともう少し別の視点で、見る。そうした立場の人がいて、初めてこうした学ぶというのが生きたものになってくるのではないかなと。そういった意味では、単に比較するのではなくて、やはり社会教育といった中では、その言ったことを比較するだけではなくて、実際にそうした地域の活動の中に入っていく。その中で、広い立場じゃなくて、そうした地域の活動の現場、視点からもう一度これらを見直していく。その中で、本来のニーズ、地域の人たちが思っていることが本来学んでいることではないかもしれないんですね。それをきちんとスペシャリストの目を見た上で、今この地域に必要なことは何があるかというようなこと。これをきちんと客観的に把握していくことが必要になってくる。地域の活動の質を高めていこうというときに、講座を開きました、そのあとは地域に任せますということだけではなくて、

それより少し先にきちんと関わっていく。そうした中で、正確なニーズを把握していく。こうしたことが非常に大切ではないかというようなことをこのワークシートに何を書こうかなと思いつつ考えております。以上です。

【委員長】

御指摘のとおりだと思っております、やはり地域を診断するということですね。地域の現状の課題をきちんと把握するということ。これを第三者がやらないかと。そうすると、支援体制の構築につながってくるんですけども、私はそうしたやっぱり第三者の委員会というものをつくって、そのまちごとの客観的な診断をして、そしてそれに必要な講座をつくる。そして、A委員がおっしゃったように、私はその地域だけでは対峙できないと思うんですよね。そこをやっぱり行政につなぐとか、専門家をつなぐとか、そうしたことをする作業というのが次の段階で私はやっぱり必要になってくると思いますね。そういうものにつながるような組織というものをやっぱりつくっていく必要があるんじゃないかなというふうに、全て地区に丸投げして、あと全部やってくださいってということには私はならないというふうに思いますね。そういうものに資するものを我々は考えていかなければと思います。

【C委員】

社会情勢が大きく変化してきている中で、最近では週休3日制というような話もちらほら出てきております。そういったことに対応するような講座事業を展開していく必要があると考えます。65歳になりましても、定年を延長していく。逆に週休3日制が実現した場合に、金土日になるのか、土日月になるのかちょっとわかりませんが、3日間、地域に大人の人がいると。そんな中で、うちらが町内で何かやってもええやないかと、そういうふうに事業を展開していく必要があるんじゃないかと思っております。

私も今まで幾つかの講座に参加し、首を突っ込んできたんですけども、本当に男性の方の参加が少ない。例えば講座の参加者が30人中男性は私を入れて3人ほど。もう少し男性の方の参加、あるいは活躍の場を工夫する必要があるのかなと思っております。

テレビ番組の中でこのような話も出ていたのですが、60歳、65歳以上の方対象に、固くなるしい、さあ勉強しましょう。講座は1時間近く講演を聞きましょうではなしに、やはり肩の力を抜いた、音楽やボイストレーニングのように人前で声をだすとか、新しい事業と取り組みが必要なのかなと思っております。

楽しいことを常に考えながら、市民の方に展開していくという、そういう姿勢が大事じゃないかというふうに思っておりますし、私もできたら参考にしていきたいなと思っております。それから、私も現役のときに、まちづくり協議会の立ち上げに関わったのですが、役員さんや委員さんが、短い任期で替わってしまうと。短い人で1年。そういう毎年委員さんがかわってしまうということもございま

したので、やはりまちづくり協議会、いろいろな団体支援を専門でやってもらえるようなそういう人を確保することが大切と、そういうアドバイスをさせていただいた経験がございます。

【B委員】

一般的に関心があるというのは健康とか、それからやっぱり食事、それからそれに関連して料理教室みたいなのが。これは誰でも参加、関心のあることじゃないかというふうに思っております。

なかなか、ありそうで学ぶ機会がない自然に関する講座、例えば太陽の黒点の発生と地球に及ぼす影響についてであるとか、そういった講座があってもいいかと思えます。

【J委員】

学びの体験をするのには拠点が必要だと思いますが、多くの人が子どものころに過ごした場所というのが草津市にあると、地域に愛情を持てるんじゃないかなというふうに思いまして、そういう居場所があったらいいなという視点から、いろいろ考えました。

まず子育て世代の、今、私たちの現状というのが、兼業主婦、専業主婦、2つに分かれますけども、兼業主婦の方であれば、家庭の時間のほうを大切にされますし、専業主婦の方も子どもが塾や習い事で送迎などなかなか時間がない状況があるので、子育て世代は講座を昼間行うということも難しいですし、夜講座に参加するというのも難しいのではないかなというふうに思いました。そうしたときに、学校以外のところで友達同士で知り合ったり、いろいろな体験をしたり、まちづくりセンターが子どもにとっていつもいる場所、いられる場所というようなところになったらいいんじゃないかなというふうに思いました。

講座の案ですが、「ほめて、親子工作教室」というものを考えたんですけども、子どもの活動を叱らずに見ていて、どういうふうに褒めたらいいのかを考えるような、褒め方というのを意外と知らないことも多いんじゃないかなと思うので。

スマホ活用講座や市販の調味料を使わない短時間でする料理研究講座など、いろいろな世代の方が参加できて考え合えるようなもの。

地域まちづくりセンターで、高齢世帯の人と子どもたちが交流できる、「おじいちゃんの昔話」、ファーストフードに慣れている子どもたちに、トランス脂肪酸とかそういうものが入っているんだよって。でもトランス脂肪酸って何。実際は何だろう。なかなか落ちない脂肪がついちゃうもとなんだよっていうのを料理教室をしながら、考えたりできるような、みんなで楽しめるそういう空間があったらいいんじゃないかなあと思いました。

【副委員長】

やっぱりほっとできる場所であるとか、出会いがある場所であるとか、そういう場所が必要ではないかなと思っています。どの世代にとってもそういう場所が必要ですし、一部の世代だけが集まるようなそういうのであってはいけないかなというふうに思っています。ただいろいろな世代の方が、じゃあ社会に出て行ってないかという、そうではないので、先ほどからも出ていましたように、ニーズを常に把握しながら進めていく。で、あるいは出てこない世代を対象にして、その対象を絞って、誰々のための何とかと。例えば50代のための〇〇、そういうものをしていく。あらゆる手段を使って人を集めていく、人が出やすいような環境づくりをしていく必要があるかなと思っています。私が住んでいる市では、カフェを設けているところもあるし、いろいろな公共施設とコラボしながらいろいろと環境を整えていく必要もあろうかなと思っています。

それともう一つ、親子で子どもを出してくると、みんな出やすいので、親子でとか、おじいちゃん、おばあちゃんがお孫さんと一緒にとか、そういうふうなことでフィールドワークしたり、地域を見詰め直す、地域内でそういうつながりが意図的につくれるような仕掛けが必要かなというふうに思いました。

【委員長】

ありがとうございました。

何度もこの場でも言うておりますけど、生涯学習政策は教育委員会だけのものではないんですね。全庁的に、全市的に取り組まなきゃいけないと。そういう中で、やはり健康福祉部門、ここからが非常に入りやすいと思いますので、健康福祉政策課長から御提案がございまして、簡単に御説明をお願いいたします。

【健康福祉政策課長】

私から、草津市で進めております健幸都市の取り組みについて、御説明をさせていただきます。

草津市は全国的に人口減少が進んでいる中でも、人口が増えているというところがございます。現地点では、平成42年ごろ、ここまでをピークとして、そのあと減少に転じるというようなことが予測をされております。また、高齢化率につきましては、20.9%ということで、全国平均の27.1%、あるいは県の平均54.6%に比べても低い状況にありますけれども、これも地域ごとに差がございます。中心市街地では16%、郊外のほうでは30%というふうになっております。これが郊外から中心市街地へと、今後も高齢化が確実に進んでいくだろうというふうに考えております。こういったことから、将来の人口減少や高齢化の局面を迎える前に、市民の皆様が生きがいを持って、健やかに暮らしていけるまち。こういった仕組みをこれからつくっていかねばいけないということで、今年3月に「健幸都市基本計画」を取りまとめさせていただきました。本日お配りしておりますの

は、その計画の概要版になります。こちらのほうの2ページをごらんいただきたいのですが、計画の背景となっております。健幸都市づくりに向けた取り組みにつきましては、従来の「福祉」「医療」「健康」——こういった分野の事業だけではなく、都市計画や産業、あるいは教育、こういった部分も含めた分野横断的な取り組みが必要であるというふうに考えております。したがって、市の最上位計画であります総合計画のリーディング・プロジェクト、これに位置づけをしまして、この健幸都市に向けた取り組みを市の総合政策として実施していくというふうに草津市では考えております。そのため、計画の中ではまず一つ目で、まちの健幸づくりということで、出かけたくなるまちづくり。交流機会や健康拠点の充実ということで、ことし4月に供用開始しました草津川跡地公園の整備、それと活用。歩いて暮らせるまちづくりのための都市計画。こういったものを進めていきたいと考えております。

また、次に人の健幸づくりというところでは、健幸宣言されましたまちづくり協議会、こちらと連携をして、地域の特性に応じた健康づくりや健康づくりのきっかけとなるポイント整理であるとか、あるいは福祉の総合相談体制の強化。福祉といういろいろな障害であるとか、高齢、子どもといった、非常に縦割りの制度になっております。こういったものを総合的に扱う体制を強化していこうと考えております。

そして、最後に仕事の健幸づくりということで、これはこの計画自体が市民の皆さんだけではなく、草津市を訪れる人々にも健康を感じてもらいたいということで、旅行と健康を融合したヘルスツーリズムの推進であるとか、大学や民間企業との連携による草津発のヘルスケアビジネスの育成とか、あるいは草津ブランドの構築、こういったものを目指しております。

6ページをごらんください。こちらの中ほどに高齢者に向けての社会参加、生涯活躍社会を構築に向けた取り組みの推進ということがございます。平成25年度に内閣府が立証しました団塊の世代の意識調査では約7割の方が社会参加の意向を持っているという。これに対して実際に社会参加している方は4割にとどまっているということで、希望が現実に結びついていないことが指摘をされております。また、新しい介護予防、日常生活支援事業の考え方においても高齢者自身が社会参加をし、社会的な役割を持つことが生きがいづくりや介護予防につながるということの指摘をされております。こういったことから、健幸都市基本計画の中では主に定年退職後に市域が生活の中心となる人たちのセカンドライフ、これを支援するため、地域活動やボランティア、あるいは就労、そして生涯学習など、社会とつながる活動にチャレンジしやすいしくみづくり、こういったものを構築していきたいというふうに考えています。そして、こういったしくみを通じて、今後の人口減少や高齢化の中にあっても個人の健康寿命を延ばしたり、地域の活力向上、こういったことに結びつけられればというふうに考えております。

したがって、現在、皆様で議論いただいております生涯学習の体系づくりと

というのは、市民の皆さんの生きがいづくりや心も含めた健康づくりとして、市の総合施策である健幸都市基本計画に向けた取り組みとしての大変重要なことと言うふうに考えておりますので、皆様方には今後とも社会教育という視点で、この市が進めております健幸都市づくりに御協力をいただければというふうに考えております。今後とも、教育委員会と市長部局が連携をしながら、草津市をあげて、この健幸都市づくりを進めてまいりたいというふうに考えておりますので、今後ともよろしくお願いを申し上げます。

【委員長】

ありがとうございます。今後、今ご提案いただいたような連携を、市民大学の中にどう位置づけていくかというようところが今後の論点の中に入ってるのかなというふうに考えます。ぜひそうしていただきたいなというふうに思います。

皆さんから多様な御意見をいただきました。次回、事務局もちょっと大変かと思えますけども、今日いただいた御意見をまとめていただいて、一つの体系の原案をお示しいただくと。こうした事務の運びになってまいります。

我々も社会教育委員は陳情要望団体ではないですから、こういう講座があったらいいなというだけでは済まなくて、それを実現していくためにはどういう体制で誰がそれをどう担っていくのか。どう提供していくのかといったところが大事ですね。次の段階におきましては、ぜひ皆さんこういう視点でもって、お考えをいただきたいと思います。100人来たら100種類のこんな講座があったらいいというのがあると思うんですね。それは全てを満たすのはなかなか難しいと思いますが、そういう中で、最初の年度はこういうやっぱり講座が、体系が必要であろうと。そしてそれはどういったところが担うのか。そういったところも我々考えていかなければいけないわけでございますので、次回はそうしたところまで踏み込めるように考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

それではきょうの審議としましては、以上とさせていただきます。